

合気道の成り立ちから現在まで ver.1

廿日市合気道クラブ

1. 合気道誕生以前

1) 合気道のルーツ：大東流合気柔術

約1,000年以上前から会津藩（福島県）に伝えられた武術。武田惣角（1859-1943年）によって近代に広められた。

2) 植芝盛平の武道遍歴

1883年、和歌山県田辺市生まれ。幼少期から柔道、剣道、槍術などの様々な武術を学ぶ。天神真楊流柔術や柳生流剣術、宝蔵院流槍術の影響を受ける。1911年に北海道で武田惣角に出会い、大東流合気柔術を学ぶ。奥義を極め、惣角から免許皆伝を受ける。

2. 合気道の創始

1) 精神的な影響：大本教との出会い

1919年、出口王仁三郎が主宰する大本教に入信。大本教の「万有愛護」「和合」の思想に深く感銘を受ける。武道の追求と並行して、精神的な修行にも励む。この精神性が、合気道の「和合」の思想の基礎となる。

2) 独自の武道体系の確立

大東流合気柔術を基盤に、様々な武術の要素と精神性を融合。大正末期から昭和初期にかけて、独自の武道体系を創出。当初は「植芝流合気武道」「皇武道」などと称していたが、1942年に「合気道」と命名。

3) 開祖植芝盛平の思想

武道と精神性の融合、争わない武道、万有愛護、人間形成。

3. 合気道の思想と特徴

1) 「和合」の思想

相手との力比べを避け、相手の力を利用する
体の動きや呼吸を調和させ、相手を制する
争いを避け、平和を希求する精神を体現

2) 技の特徴

相手の攻撃を無理に受け止めず、受け流す
体捌きや体の転換などにより、相手の体勢を崩す
関節技、投げ技、抑え技などを組み合わせ、相手を制する
武器術（剣、杖、短刀）により体術との相乗効果を高める

3) 心身の鍛錬と人間性の向上

単なる護身術ではなく、稽古を通じて心身を鍛える
礼儀作法や相手を尊重する心を養う
武道の追求を通じ、人間としての成長を目指す

4. 合気道の普及と発展

1) 戦後の普及活動と国際的な広がり

1948年「合気会」設立、発展の中心的な組織として活動
盛平翁の没後も、弟子たちが国内外に合気道を広める
現在、140カ国以上に約150万人の愛好者がいる
吉祥丸（二代道主）の功績、近代化や国際的な普及に尽力

2) 合気道の継承

創始した植芝家を中心に継承（盛平、吉祥丸、守央）
開祖の合気道観は複雑で、弟子が均質に理解するのは困難
弟子たちは独自の考えで合気道を実践
流派は存在しないが、実際には異なる合気道観が存在

3) 主な直弟子たちの活躍

藤平光一：氣の概念　塩田剛三：実戦的な合気道を追求
富木謙治：競技化　西尾昭二：独自の合気道を提唱
齊藤守弘：開祖の技を忠実に継承、武産合気として体系化

4) 合気道の主な団体

公益財団法人合気会：開祖の植芝盛平を継承する最大組織

二代道主：吉祥丸、三代道主：守央、本部道場長：充央

合気会→広島県連盟→広島合気会→廿日市合気道クラブ

養神館合気道：塩田剛三が創始した団体

心身統一合気道：藤平光一が創始した団体

岩間神信合気修練会：斉藤守弘の息子の仁弘が主宰団体

5) 西尾昭二の合気道（広島合気会が主に継承する合気道）

柔道、空手などの武道を活かし、合気道の実戦性を追求

ヨーロッパやアメリカなどで指導、国際的に高く評価される

独自の解釈による技法は「西尾流」と呼ばれることがある

自身が主催する団体を持たない、正当な継承者がいない

5. 現代における合気道

1) 多様な側面を持つ武道

武道としての側面：技の修練、護身術

健康法としての側面：体力向上、ストレス解消

精神的な鍛錬法としての側面：集中力や精神力の向上

体力や運動に自信がない人でも自分のペースで稽古できる

高齢者や女性も無理なく続けられる

2) 合気道から得られるもの

礼儀作法、相手を尊重する心

心身の調和、自己肯定感

国際的な交流、異文化の理解、世界平和の探求

3) 今後の展望

伝統を継承しつつ、現代社会に合わせた発展を目指す

合気道の理念を広め、平和な社会の実現に貢献する

次世代への継承が重要な課題である

以上